

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2021年9月20日(月)

NO. 1205号

本号3頁

「総選挙で憲法を守り・生かす新たな政権を誕生させよう」と訴える! 総かがい行動実行委員会ら街宣行動

全国市民アクションと総かがい行動実行委員会は16日夕、新宿駅西口で「戦争法強行からまる6年 憲法改悪反対!市民と野党の共闘で今こそ政権交代を!9・16街宣宣伝」を行いました。42名が参加し、「臨時国会を開催し、コロナ対策を審議せよ」「憲法を守りいかに新しい政権を実現させよう」等と訴えました。

9条壊すな!実行委員会の高田健氏は、自民党の総裁選について「どの候補者も、行き詰まり破たんした安倍・菅政治を支えてきた人たちであり、表紙を変えただけでは政治は変わりません。天気は変えられませんが、政治は変えられます。市民と野党で新しい政治を実現させましょう」と訴えました。

憲法共同センターの川村好伸全労連副議長は、安倍・菅政権がコロナ対策で自己責任を押し付け医療体制の拡充や大規模検査を怠り、多くの国民の命が失われたと告発。「市民と野党の共闘で、国民の命を守る新しい政権をつくろう」と呼びかけました。

日本体育大学の清水雅彦教授は、コロナ対策の遅れは「憲法25条に定められた国民の衛生を守る責任を果たさなかった自民党政治だ」と指摘し、「市民がしっかり支え、政策合意した野党連合政権でこそコロナ対策ができる」と強調しました。

最後にマイクを持った憲法会議の高橋信一事務局長は、「総裁選候補者たちはいずれも安倍・菅政権を推進し、安倍改憲の旗振り役を担ってきた人物。自民党総裁に誰がなっても、政治の行き詰まりを打開することはできません。総選挙で勝利し、憲法を守り・生かし、国民の命と暮らしを守る新たな政権を誕生させましょう」と呼びかけました。



埼玉憲法会議学習決起集会開催 自公政権を存続させぬ!

埼玉憲法会議は14日、さいたま市で総選挙に向けた憲法・学習決起集会を開き、オンラインも含めて90人が参加しました。

新島善弘代表委員は、市民連合と4野党が政策合意したことに触れ、「何としても政権交代を」と呼びかけました。来賓の「オール埼玉総行動」実行委員会の小出重義実行委員長は「自民党総裁選の候補者はすべて、安倍・菅政権を支えてきた。自公政権がつづく限り、政治は変わらない」とあいさつしました。

慶応大学名誉教授の小林節氏が講演しました。自民党が野党時代の2012年に発表した改憲草案では、憲法は権力を縛るものであるにもかかわらず、国民に憲法を守る義務を押し付けていると指摘。「自民党は話してわかる相手ではなくなった。政権交代が求められている。野党が候補者を一本化して選挙に臨むことが重要だ」と強調しました。

参加者が、命・人権を守るためにも「選挙に行こう!」「選挙に行こう!」の訴えを広げて埼玉から政治を変えようと発言しました。

鳥取県憲法会議「新憲法パンフレット」学習会を開催

8月21日（土）に、憲法会議発行の新パンフレット「9条改憲ストップ！～憲法を生かしたコロナ対策、政治・社会の実現を（23P）」の読み合わせ学習会を米子市公会堂で開催しました。県憲法会議会員7人の参加がありました。

パンフレットは、「今こそ9条改憲に終止符を」との題目で8項目、「憲法の蹂躪を許さず、政治に社会に憲法を生かそう」との題目で5項目について、Q&A形式（Qの例文：①どうして憲法9条を変えようとしているのですか？②コロナ禍のもと、憲法をいかしてどんな社会、どんな政治にするべきでしょうか？など）で解説したもので、日本国憲法を守り、生かす運動の指針となるものです。

学習会では、各項目について読み合わせ、記事内容について議論し、認識を深める形で行いました。このパンフレットには、憲法が私たちのくらしと生活に密接に関係していることについて、原爆被爆者、新日本婦人の会、全労連の代表、小沢東京慈恵会医科大学教授などの各界からの発言。そして、憲法会議からの提起。各地の憲法会議の状況として、鳥取県憲法会議の運動風景の記事が掲載されています。



是非、新憲法パンフレットをお読み下さい。憲法を守り、生かす運動の糧としましょう。

（報告：事務局長 森下 克彦）

八代氏デマ発言「見過ごせない」野党国対委員長が会談

日本共産党の穀田恵二国対委員長は15日の野党国対委員長会談で、TBS系番組「ひるおび！」（10日放送）で八代英輝弁護士が「共産党は暴力的な革命を党の要綱として廃止していない」などと発言したことについて、「八代氏は自らのデマ発言について、綱領に書いていないことだったと認めて謝ることもしない。こういう形で公党を侮辱することは、民主主義の破壊であり、許すことはできない」と表明しました。

これを受けて、立民の安住淳国対委員長は「このことは共通の認識だ。われわれも黙って見過ごすことはない」として、共産党の立場を全面的に支える考えを示しました。また安住氏は、自民党総裁選報道の在り方や、今回のような事実を歪曲（わいきょく）した選挙妨害の発言について「場合によってはBPO（放送倫理・番組向上機構）への対応も考えなければならない」との考えも示し、「総選挙を目前にして国民を意図的にテレビが先導しかねない」と述べました。

八代氏は10日の発言について、13日の同番組で、自身の発言を撤回するどころか「閣議決定された政府見解に基づいたもの」と正当化しました。八代氏の発言は、「暴力革命」という自公政権のデマ攻撃のうえに虚偽の発言を加える二重のデマ攻撃です。市民をはじめ、学者・文化人、立憲民主党の国会議員、社民党から市民と野党の共闘への攻撃でもあるとして、批判が広がっています。

さらに、加藤官房長官は14日の記者会見で、記者から「共産党の志位委員長は、過去に用いた『敵の出方』論という表現について、2004年の綱領改定後は使わず一貫して平和的合法的に社会変革を進めるとの考えを示した。一連の発言を受けて政府の見解を変更することはあるのか」との質問を受け、「政府としては日本共産党のいわゆる『敵の出方』論に立った暴力革命の方針に変更はないと認識している。そのことはこれまで国会答弁、質問主意書などで累次にわたり明らかにしているところであり、先般の志位委員長の発言で、この政府の認識は何ら変更するものではない」と発言しました。

この発言に対して、日本共産党の志位和夫委員長は同日、「デマにデマを重ねるものであり、到底許されるものではない」と厳しく批判する談話を発表しています。

八代弁護士は13日に続き17日、わずか4日で再び謝罪しました。この日の番組では、立憲民主党の江田憲司議員をゲストに迎え、話を聞きました。その中で野党の共闘についても話題が及びましたが、そこで八代弁護士が「野党共闘の政策の実質論に入る前にお時間を頂きたい」と切り出し、9月10日に

同番組内での「共産党は暴力的な革命を党の要綱として廃止していない」という発言について「現在の共産党の綱領にはそのような記載はないと、多くのご批判を頂きました」とコメント。「ご指摘の通り、現在の党綱領にはそのような記載は存しません」と語りました。

その上で「選挙を間近に控えたデリケートな時期に私の発言で多くの関係者に多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます」と頭を下げました。

スタジオにいる江田氏にも「共闘を模索する立憲民主党の江田代表代行にもこの場を借りて深くお詫びしたい」と頭を下げました。

それに対して、共産党の志位委員長は「謝罪・訂正したものと受け止めます」とツイッターに投稿しました。そのうえで「この問題にかかわっては、他の野党の皆さん、多くの知識人・文化人、市民の皆さんから、温かいサポートをいただきました。心から感謝申し上げます。この問題を契機として、市民と野党の共闘がいつそう前進するよう、力を合わせていきたい」と表明しました。

各地のとくみ

石川 野党3党への申し入れ懇談を報告し、県内の野党共闘を求める!

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める!いしかわ市民連合」は13日、須藤春夫共同代表(法政大学名誉教授)、五十嵐正博共同代表(金沢大学名誉教授)が石川県庁で記者会見し、衆院選挙で県内の野党共闘を求めました。

須藤氏は、今月2~3日県内の立憲民主党、日本共産党、社会民主党の3党に申し入れ懇談したと報告。申し入れ項目は①総選挙に向けた政治転換の意志の明確化②総選挙における選挙協力③共通政策の策定—の3点です。

須藤氏は「次期衆院選は政権交代がうり得る選挙、野党共闘の前進で、国民の命を大事にする政権が期待できる選挙だ」とし、「8日の中央段階での市民連合の共通政策への合意を受け、県内でも同じ内容で改めて3党に政策合意を求め、野党共闘をすすめていきたい」と述べました。

五十嵐氏は、「投票率が上がれば野党に有利と思う。投票権は、こういう社会でありたいと行使することによって。自分の暮らしを守ることができる権利」と強調し、「街角などでも訴えていきたい」と述べました。

千葉・船橋 「世界でもっとも聞けな軍用機オスプレイを飛ばすな」と声上げる

千葉県船橋市の市民団体「どこの空にもオスプレイはいらない@フナバシ」は10日、JRフナバシ駅前、陸上自衛隊木更津駐屯地に「暫定配備」されている「オスプレイの配備撤回と訓練飛行の中止を求める」署名を呼びかけました。

日本共産党の、さいとう和子衆院南関東比例候補、丸山慎一前県議らが参加しました。

参加者は交代でマイクを取り、「世界でもっとも聞けな軍用機オスプレイは私たちが住んでいる千葉県の上空を我が物顔で飛ばうとしています」などと訴えました。

さいとう氏は「墜落事故や緊急着陸を繰り返すオスプレイはアメリカでは住宅地の上空を飛ばないのに日本は飛ばす、こんなことが許されるのでしょうか」「戦争のための訓練を船橋市の上空で行うのはおかしいという声をあげよう」と呼びかけました。

署名した70代の女性は「話を聞いて、そんな危険な飛行機を飛ばしてはいけないと思います」と話しました。

埼玉 「政治を変える絶好のチャンスです」と訴える! 「戦争させない!埼玉の会」

「戦争させない!埼玉の会」は10日、浦和駅東口で「コロナ禍から命・暮らしを守る緊急アクション@埼玉」とも連帯し、定例の金曜宣伝行動に取り組みました。

参加者は、「自民党総裁選の候補者は、安倍・菅政権で要職にあった人たちがばかり。新しい政治は望めない」「自公政権が続く限り。命と暮らしは守れない。今度こそ政権交代を」と呼びかけました。市民連合と野党4党が政策合意したことを紹介し、「政治を変える絶好のチャンスです」と訴えました。

市民から「野党がまとまらないのでイライラしていた。やっと動き出したね」「テレビが自民党の総裁選のことばかりで、腹が立つ。頑張って」などの声が寄せられました。